

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2011.1.1

No.78

十二月、クリスマス関係の多くの働きが終わりまりました。今回のメインは二十三日に行われた緒方美智子さんによる特別賛美の集いでした。緒方さんは九州・博多の集いに属しておられます。と言っても普段はオーストリアのウィーンに在住で、ウィーン歌劇場で舞台に立っている人です。世界最高峰の舞台で歌うオペラ歌手の歌声を生で聞けるというのは何という幸運なことでしょう。ところが私はこの日、群馬県へコルシヤロームの働きで行くことになっていました。残念無念！そこで練習の時にその歌声を聞かせていただきました。感動しましたが、それでも練習です。当日は二百人を超える超満員だったそうですが、それでも半分の力だったそうです。恐るべき世界レベル…。

歌声はもちろんです、お聞きした体験談も印象的でした。オーストリアで勉強していたとき、友人にオペラのオーディションがあることを聞きました。前日だったので履歴書を用意する暇もなく、受けに行くこと見事合格。履歴書不備を詫びると「あなたの声がりっぱな履歴よ」と言われたそうです。書類不備では出場もできない一般的な対応とは全く違います。まさに実力だけがものを言う世界です。そのような環境で歌ってこられた緒方さんも、内面に大きな変化が起こりました。幼いときから信頼してきた創造主なる神との交わりが乏しいことに苦しき

真理がもたらす平安と喜び



を感じるようになったのです。人間はどんなに成功してもそれによって満たされることはありません。その空しさを指し紛らわすために、また違う目標を目指して突っ走っていくのです。緒方さんはパスカルの有名なことば「人間は心の中に神の形をした空洞を持つている。それは神以外埋めることができない。」状態であることを悟り信仰を新たにされます。オペラ歌手の傍ら、音楽仲間にも聖書の福音を語ったり、日本の教会を回って音楽を通じて神さまのことを伝えたりしています。

「神はすべての人が救われて真理を知るようになるのを望んでおられます。」

(第一テモテ二章五節)

聖書は「真理の大切さ」を語ります。多くの人は「信じたいものを信じたい」と考えます。勧めてくれた人がいい人だったとか、フィリングに合ったから、というものです。これは人間の感情に左右された信仰です。一方、聖書は「信じたいものを信じる」ことより「本物を信じる」ことを強調しています。私たちが信じたくないことでも本当のことであればそれを受け入れるべきだと言うのです。砂糖を薬と信じて飲むより、本物の薬を疑いながら飲む方が効き目があるのです。この場合砂糖であれば副作用もありませんが、もし毒薬だったら被害を受けることになります。ある人たちは偽物を信

じ込んでひどいしっぺ返しを受けるのです。今はうまくいっていても後に必ず後悔してしまいます。聖書がいう信仰は「気分で行うこと」でも「盲目的に信じ込む」ことでもありません。絶えず本物かどうかを確認していくことを求めています。「求めなさい。そうすれば与えられる。」という有名なイエスの言葉があります。「好きなことをとにかく求め続ける」という意味ではなく「真の神に真理を求めなさい」という意味です。聖書を背景に持つ社会では「論理学」や「討論」が重要視されます。本物を見極めようとする姿勢を重んじるからです。

「君たちクリスチャンも真理だと信じ込んでいるだけではないの？」と思っておられるかもしれません。確かに「真理」だと納得しつつ人はいろいろなことを信じています。でも人間は確信していても間違えることがあるのです。だから私たちは「真理」を重んじつつ、「真理を保っているか」絶えず注意を払おうとしています。このことは教会の働きに専念している私にとっても大きな課題です。と言っても私は教会に雇われているわけではありません。教会から給料をもらっているわけではないのです。もし、そうならば教会の方針に違った意見を述べることが難しくなるでしょう。間違いに流されやすい人間に對して、歯に衣着せぬ意見を言うには、私のような立場の人も必要なのです。

というわけで、私は聖書をみなに知ってもらうために調べ、確認し、文章やメッセージにして発信しているのです。



ハンドベル

十二月にはバイブルサークル・クリスマスパーティーという若者向けのクリスマス会がありました。私はそこでヤンググラスの中学生の仲間八人と一緒にハンドベルを演奏しました。曲は「もろびとこぞりて、カノン、ジングルベル、荒野のほてに」というクリスマススメドレーです。私はピアノを担当しました。初めは上手く弾けるかという不安がありました。その不安のおかげで一生涯懸命練習できたと思います。

また、私の家族と同じホームスクールをしているT家と共にデイサービスの慰問に行く機会が与えられました。私はそこでも同じ楽譜で、メンバーは違いますが、ハンドベルを演奏しました。この時の担当はベルで「ミ」を弾く予定でした。ベルは思ったより音が出ず、やっと音が出たと思っても、ハンドベルというのは一人では何も演奏できず、メンバーがいてやっと完成するものなので、息を合わせるのは結構大変でした。頑張って完成させたつもりだったので、前日にメンバーの一人が参加できなくなり、急きょ変更になってピアノを弾くことになりました。

結局、バイブルサークルのクリスマスパーティーでも、デイサービスのボランティアでも成功したと思います。何よりもメンバーと力を合わせて演奏でき、すごく良い思い出になりました。



N

「じつないじつしました！」 行事報告

十二月

- 二日 合同公文教室
- 四日 老健施設「くれない」慰問（日曜学校）
- 七日 デイサービス「I」訪問
(ホームスクーラーたちで)
- 十四日 お作法教室
- 十八日 B.C・クリスマス会
- 二十一日 塗り絵・絵画教室
- 二十五日 「水彩絵の具で描こう④」
Jクラブ・クリスマス会
- 二十八日 祖父母宅 お餅つき



せいろでもち米を蒸して餅つき機であんこ餅を作りました。ポン酢で食べる酢もちも最高でした！



↑友人からもらった七面鳥。くんせいで、じっくり火が通っていました。

Jクラブ・クリスマス会

E

十二月二十五日教会で子供たち用のクリスマス会をしました。毎年恒例で去年もしました。一年ごとにパワーアップして面白くなっていきます。ぼくは一年生ぐらいから行っていたので七回目になります。今回はいつもとは違ってお手伝いをするために参加しました。ぼくが担当したのは紙コップゴルフといって紙コップでゴルフをするというちょっと変わったゲームです。ぼくは紙コップゴルフの担当でしたが、ほかにも風船射的やバルーンアート、ストラックアウトなど様々な遊びがありました。クリスマス会の前夜は風船をふくらませたり、看板をつくったりみんな必死に準備していました。いつもは遊びにいらっていたのですがお手伝いすることによってみんなの苦勞がわかってほんとにいい機会でした。

編集後記

今はやりの「ノロ・ウイルス」に家族三人が感染し大騒動でした。しかし、クリスマス関連の多くの働きには全く支障なし。Rは降誕劇の羊飼いの役。Eはゲームの司会役、フランス語での案内に挑戦。Nはハンドベル。Hはコル・シャロームの伴奏。Mはひたすら受験勉強。Kはコル・シャロームで高松（香川）、宇部（山口）、前橋（群馬）に遠征しました。お正月は、教会のみんなと料理を持ち寄って食べて、話して、楽しみました。

